様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　５ 月 ３１ 日現在

機関番号：３２６４４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2022
課題番号：１６Ｋ１２３１８

研究課題名（和文）首都圏の定年退職男性を対象とした「地域とのつながり」を築く支援プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of relationship building program among retired Japanese men and their non-family members in a community; Focus on the Tokyo metropolitan area

研究代表者
吉野　純子（YOSHINO, Junko）

東海大学・医学部・准教授

研究者番号：５０２９００３６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：定年退職した男性にとって、「地域とのつながり」は、退職後の男性に、新たな社会的存在価値を獲得する一助となり、自己の在り方に拡がりと豊かさをもたらすプロセスであることが示された。男性にとって、「地域の中に共有できる対話の場を得る」ことが、退職後の彼らの居場所や存在価値を得られる場ともなり、第2の人生を安心して充実させていくためにも重要であることが示唆された。一方、地域には、家庭以外に高齢男性の安心できる居場所が少ない実態、現役時代からの働き方・地域との向き合い方が定年後の生活に大きく影響することも明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の結果より得られた「地域の中での共通して話せる話題」を創ること、そして集える場と造ることなどは、地域保健・公衆衛生看護の立場からの支援策として検討することが可能な具体的な方向性を提示できたと考える。
地域の中で社会的に孤立しやすい高齢期の男性や、定年退職した男性が地域の中でつながりを作り、安心で満足な生活を送るための支援策の充実に役立てることが期待できると考える。

研究成果の概要（英文）：For retired men, "relationship with a community" is the process that gave new social values and expansion to their lives after retirement. For the men, "having a place in the community where they can talk about common topics" will give them a place to belong and a value for their existence after retirement. The results suggest that having common topics of communication with residents in the community is very important for retired men to live their second life in the community with peace of mind.
On the other hand, it also became clear that there are few safe places for elderly men in the community other than their homes, and that the way men have worked and interacted with the community since their working years has a significant impact on their post-retirement lives.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：定年退職　男性　地域とのつながり　首都圏

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

高齢化と平均寿命の延伸に伴い、元気な退職者が長い退職後の日々をいかに自立して健康に過ごしていくか、また彼らを地域がどのように受け止めていくかということは、地方自治体にとっても大きな課題となっている[1)]。労働を重要な役割としている男性にとって、退職は、ライフスタイルや個人を取り巻く人間関係、生活環境が大きく変化するといわれる[2)]。日本の全労働者数の約 7 割は中小企業の所属とも言われており[3)]、大企業だけでなく、中小企業からの退職男性にも着目して、彼らが退職後に地域での生活指向型の生活へと移行していく過程や課題について明らかにしていく必要があると考える。本研究では、コミュニティの崩壊が進む首都圏などの都市部にフィールドを絞って実施する。定年退職後の男性が求める地域とのつながりのあり方を彼らの視点から探究することは、高齢期男性の社会的孤立を防ぐ観点からも、地域において保健医療専門職が定年退職した男性向けの保健事業プログラムを開発していくうえで、より具体的で魅力的な支援プログラムの展開を可能にする一助になると考える。

２．研究の目的

(1) 首都圏における中小企業を定年退職した男性の地域とのつながりの現状と、地域とのつながりを築いていくプロセスに関わる概念を明らかにする。
(2) 研究(1)で得られた結果を、先行研究の結果（大企業を定年退職した男性）と比較・統合を行い、定年退職した男性が地域とのつながりを築いていくための構成概念に基づき、「定年退職した男性と地域とのつながり」に関する調査を行うための質問紙を作成する。

３．研究の方法

(1) 研究目的(1)の研究方法
①研究デザイン：質的記述的研究
②実施期間：2017 年 6 月～2018 年 3 月
③研究対象者：首都圏在住の中小企業を定年退職してから約 20 年以内の男性 11 名
④データ収集方法：インタビューガイドを用いた半構成化インタビュー
⑤分析方法：内容分析。結果データ（逐語録）を繰り返し精読し、語られた文脈から、定年退職後の男性の‘地域活動との関わり’および‘地域とのつながり’について語られている部分を抽出してコードに起こし、コードの示す意味内容の類似性を基にコーディングする。コーディングしたデータは、その類似性に着目してカテゴリー化を行う。その段階を繰り返しながら分析を進め、抽出されたカテゴリーをもとに、「中小企業を定年退職した男性と地域とのつながり」の構築に関連する概念および関連要因について検討する。対象者全員（11 名）のデータを内容分析した分析した研究を〔結果①〕、大企業から中小企業へ転職を経たのちに退職した 2 ケースを内容分析した研究を〔結果②〕とする。

(2) 研究目的(2)の研究方法
①結果の統合：研究(1)で得られた結果を、先行研究（首都圏の大企業を定年退職した男性と地域とのつながり）で抽出された概念と比較し、事業場規模による地域とのつながりのあり方の相違や共通概念、また首都圏における特徴や関連要因の統合を行い、定年退職した男性が地域とのつながりを築いていくための構成概念および関連要因の検討および精緻化を行う。
② ①の概念をもとに、「定年退職した男性と地域とのつながり」に関する調査を行うための質問紙を作成する。

４．研究成果

(1) ①結果１：中小企業を定年退職した男性が地域とのつながりを構築していく過程については 9 カテゴリー、44 サブカテゴリー、関連要因として 5 カテゴリー、30 サブカテゴリーが抽出された。男性は、【仕事以外の話題性に乏しく】、〈仕事の肩書きが通用しない〉【地域に自身を適応させること】に戸惑いつつも、【自ら踏み出す勇気】をふるい起こしたり、【家族や友人、地域組織からの橋渡し的支援を得】ながら、【試行錯誤しながら新しい対話の手段を模索して】いた。対話の手段を模索するうえで、〈現役時代から趣味を持っていた〉り〈仕事以外の多様な経験をする〉など、【現役時代の働き方が第二の人生に向き合う姿勢をつくって】いた。そして、地域生活の中で〈新しい体験や発見〉を積み重ねて【心の豊かさを育んで】いき、【住民同士の支え合い】や【やる気をつなぐ人や場、仕組み】の大切さを感じていた。そのためにも、〈安定した健康状態が前提として大事である〉ことが見出された。（表１）（表２）
考察１：中小企業を定年退職した男性は、『現役時代の働き方や生活の充実度』が退職後の生活に大きく影響していた。現役時代から、仕事以外の付き合いや趣味を持って【仕事以外に語れる

Table 1. 中小企業を定年退職した男性が地域とのつながりを構築していく過程を構成するカテゴリー

カテゴリー(9)	サブカテゴリー(44)　(表記は一部抜粋)
退職によって安堵感と開放感を得る	退職によって安堵感と開放感を感じる
	退職によって燃え尽きを感じてやる気がでない
	時間的余裕を有効に活用する
仕事以外の話題に乏しい自分に気づく	仕事人間だったため地域との付き合いがない
	会社から離れると話題性がない
	自分のことを話せる機会がない
新しい環境に自身を適応させることに戸惑う	定年するにあたり隣近所との付き合いに悩む
	仕事を辞めるとこれまでの自分が通用しなくなる
	現役時代に染みついた自身のスタイルを変えることに戸惑う
試行錯誤しながら新しい対話の手段を模索する	自由で互いに好きな話ができる場を求めている
	人々の対話を育むコミュニケーションツールを見出す
	男性だけの場は気が楽である
自ら関心をもって地域に踏み出す勇気をもつ	行動するには自主性が求められる
	自ら積極的に地域に働きかけて機会を見出す
	働いている時から地域活動への構想をもっている
	資格や特技を生かして地域に係わる
家族や身近な他者からの橋渡し的支援を得る	妻が地域とのつながりを持っている
	友人との付き合いによって引き出される
	地域から求められて半強制的に地域組織と関わりをもつ
	介護相談をきっかけに地域とつながりを持つ
新しい体験が心の豊かさを育む	地元の人との交流から身近にある大切な日常に気がつく
	新しい体験や発見を楽しむ気持ちでいる
	自己実現を模索しながら活動を展開している
住民のやる気をつなぐ人や場、仕組みを大切にする	行政には、住民のやる気を逃さないタイムリーな場やシステムの整備を求めている
	地域の活性化には若い世代と活動を共にしていく必要がある
	地域活動継続には核となる人物の存在が大切である
住民同士が支え合えることに意味を見出す	住民のひとりとして地域の役にたちたい
	地域の人と健康になりたい一心で活動を続けている
	行政任せでなく、住民側も地域活動内容を考える必要がある
	普段から地域の人と話せる関係でいることで、健康危機の時にも支え合える

自分】の幅を広げておくこと、そして健康でいることが、男性の心身にゆとりをもたらし、その心のゆとりが外向きの意識を後押しすることで、地域への軟着陸がよりスムーズになるのではないかと考える。また、男性にとって『地域の中に新しく共有できる対話の場を得る』ことが、退職後に地域での居場所を見出すためにも重要であることが示唆された。

Table 2. 中小企業を定年退職した男性が地域とのつながりを構築していく過程に関連する要因

カテゴリー(5)	サブカテゴリー(30)　(表記は一部抜粋)
現役時代の働き方が第二の人生に向かう姿勢をつくる	中小企業は人間関係も労働条件となる
	社会貢献意識には企業理念が影響している
	誇りに支えられた職人の世界がある
	職住接近の働き方を選択する
仕事以外に語れる自分を持っている	現役時代から趣味を持っている
	現役時代に多様な経験を積むことが自分の幅を広げてくれる
	働いている時から地域活動への構想をもっている
	資格や特技を生かして地域に係わる
社会や住環境の変化により地域との接点が作りにくい	転出入が多く隣近所の付き合いはなかなかできない
	ネットやSNSの発達により人同士が関わらなくても生きていける
	家庭以上に居心地のいい場所はない
安定した健康状態が外向きの意識を後押しする	体調を崩すことで活動から足が遠のく
	健康を害することで仕事を続けることが困難になった
	これからの生活において健康が一番大事であるといえる
	退職後にこそ健康への危険予知が必要になる
負担感が地域活動の継続を困難にする	金銭的負担が生じると活動継続が難しい
	負担感を感じる活動は続かない
	旧い組織体質や複雑な問題処理に疲れてしまう
	学歴社会において引け目を感じる

②結果２：大企業から中小企業に転職後定年退職した男性が地域活動を創生するプロセスは、「地域活動に向かう心の余裕ができ」、仕事で得た術も生かして「人生の集大成としての生き方を設計して」いた。そして、「地域活動のコアを見極め」ることに心血を注ぎ、仲間と「地域への愛着を育んで」いった。困難にあっても「地域との付き合い方を心得る」ことでやり過ごせていた。（表３）

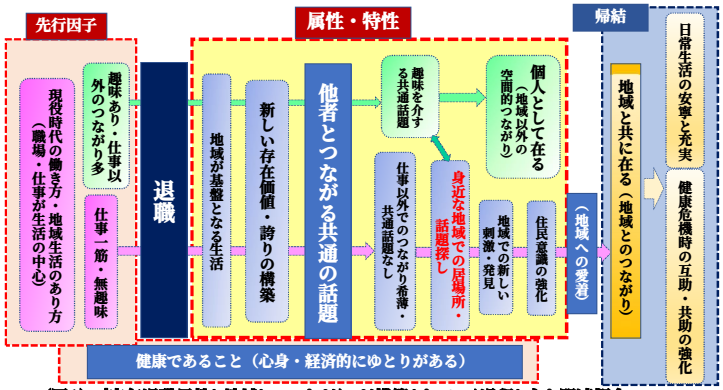
考察２：大企業から中小企業に転職し定年を迎える中で、人生の集大成としての生き方を設計し、大切にすべきコアを見極めて地域活動を創出していくプロセスが明らかになった。

Table 3. Process of creating community activities by elderly men retired from a small or medium-sized company after moving from a large enterprise

Category	Sub-category
'became relaxed after moving to a small or medium-sized company, which was evident in how they conducted community activities'	find the more important things than job
	have a opportunity to work on community activities
	cultivate mind to cherish people during working for small or medium-sized company
	want to act self-directed on community activities
'planned how to live their own life before and after retirement'	consider their own life plan before retirement
	use their experience for the community activities
	learn about considering life work
	consider achieving self-actualization at the end of life
	consider what they can do by using their experiences
	act with heart-felt commitment while they are healthy
'ascertaining the goals and methods for developing community activities'	ask their fellow to act as they think
	consider what is important to act for community
	ascertain the priority of community activities
	consentrate to develop the community activities
'grew attached to their community as they learned about local activities'	have attached to their community
	connect with people through protecting and spreading local treasure
	need to act considering the local activities
	understand local activities among people's network
	find local pros and cons through community activities
'get along with community members'	keep touch with their neighbors generally
	supported by their wives as an interface to community
	supported by government departiment that understands their faith

(2) 大企業からの定年退職男性と中小企業を定年退職した男性の双方から得られた「地域とのつながり」に関する概念を統合した結果、「地域とのつながり」は、定年退職後男性に新たな社会的存在価値を獲得する一助となり、自己の在り方に拡がりと豊かさをもたらすプロセスであることが示された。一方、地域には家庭以外に高齢男性の安心できる居場所が少ない実態、現役時代からの働き方・地域との向き合い方が定年後の生活に大きく影響することも明らかになった。（図１）

図１に示す構成概念を骨子として、「１．対象者の背景・生活スタイル項目」、「２．現役時代の働き方・過ごし方」、「３．退職直後の生活・心境」8 項目、「４．現在の地域生活状況（健康面・経済面含む）」8 項目、「５．地域とのつながりに関する項目」22 項目、「６．生きがい意識尺度」9 項目[4]、から構成される、首都圏在住の定年退職男性を対象とした量的調査を行うための質問調査票を作成した。



〔図1〕「定年退職男性と地域とのつながり」が構築されていく過程と主な関連概念

＜引用文献＞

①藤原佳典：団塊世代の退職による地域保健活動への影響．保健師ジャーナル，2007，63(2)，108-113．

②西田厚子：団塊世代の定年退職に向けた保健活動のあり方．保健師ジャーナル，2007，63(2)，130-133．

③中小企業：平成 28 年度中小企業施策利用ガイドブック.2016，http://www.chusho.meti.go.jp/soshiki/teigi.html

④今井忠則、長田久雄、西村芳貢：生きがい意識尺度（ikigai-9）の信頼性と妥当性の検討、日本公衆衛生雑誌、2012，59(7)．433-439．

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 吉野純子	４．巻 76
２．論文標題 定年退職期にある男性の地域活動に対する態度とその関連要因	５．発行年 2020年
３．雑誌名 保健師ジャーナル	６．最初と最後の頁 60，66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 Junko Yoshino, Taeko Shimazu, Shigeaki Watanuki, Noriko Nishikido
２．発表標題 Process of Relationship Building Among Retired Japanese Men and their Non-Family Members in Tokyo
３．学会等名 Aging & Society: Eighth Interdisciplinary Conference 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Taeko Shimazu, Junko Yoshino, Shigeaki Watanuki, Noriko Nishikido
２．発表標題 Process of Creating Community Activities by Elderly Men Retired From a Small or Medium-sized Company After Moving a Large Enterprise
３．学会等名 Aging & Society: Eighth Interdisciplinary Conference 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	錦戸　典子 (NISHIKIDO Noriko) (10172644)	東海大学・医学部・教授 (32644)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	嶋津　多恵子 (SHIMAZU Taeko) (80184521)	国際医療福祉大学・大学院・教授 (32206)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関